

東京家政学院短大 井澤 尚子

目的 めまぐるしく変化するファッション環境の中で、女子学生の服装に対するイメージはどのように変化するのか。昨年に引き続き、経年的な調査を試みた。各自が最も着装したいワンピース・ドレスを、被服造形学演習において創作、着装させ、色彩・素材・形態のイメージについて考察し、その要因を追求した。

方法 1) 被験者 女子学生 (年齢 18 ~ 19 歳) 66 名、2) 生地購入時期 1994 年 4 月、完成 1995 年 1 月、3) 着装評価 形容詞 22 尺度 5 段階評定、4) 主成分分析 イメージ・プロフィール、相関行列、固有値、主成分負荷量、個人値と色彩との対応、イメージ空間に解釈を加えた。

結果 ワンピース・ドレスの生地素材は、天然素材ブームと季節の影響で、無地のウールがほとんどであった。イメージ・プロフィールは、「落ち着いた、女性的な、上品な、清潔な、好きな、美しい、」が上位であった。相関の強い形容詞は、「美しい、上品な」、「女性的な、美しい」、「清潔な、やわらかい」、「女性的な、上品な」、「独創的な、個性的な」、「可愛らしい、甘い」であった。第 1 ~ 第 4 主成分までの固有値の累積寄与率は 54.1%。主成分負荷量から、「シック」、「オリジナル」、「エレガント」、「ポピュラー」のタイプに分けられた。これらのことから、女子学生の服装嗜好では、ファッション性に伴う自己表現、服種の特性にみる女性らしさの表現、さらに、着装時の精神的安心感の表現がイメージ要因であることがわかった。